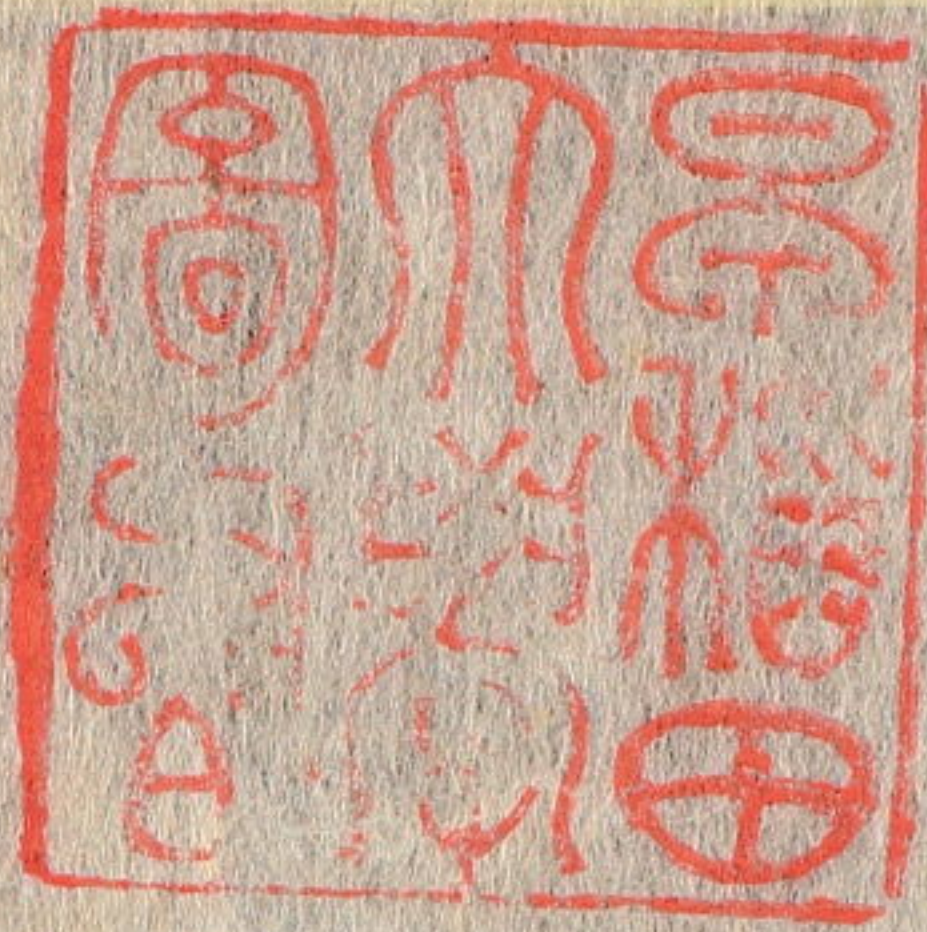


朝夷巡島記第七編二



13  
704  
32





明治三六年  
十月九日  
購求

朝夷巡島記全傳第七編卷之二

東都

松亭金水編輯

續輯第三

誠忠諫父與祖父  
密使渡口失路費

そとと家辱小因て操と易さるへ士人ごも猶克が。況や婦女ふおいて之を世鶴  
始めの渋谷が計らひ道もぬゆと思ひたて大屋高堂小冊うらるとの争ひ後小  
背りんやと思ひし。現小人間の住居する家小いぬらと疑りまを結構善美と  
盡ある富貴小忽地心復もて君小媚と献ずる小ぞ。君いますく寵愛ありと綾  
羅の褥珠の床以前小換る歡樂小その操さるも忘とて上る小と思ひる。これ  
ハ羽林家も世鶴が色小愛香と美。日夜とて酒宴と設け歌舞音曲の絶る  
間も。彼紂王が長夜の娛樂も。是れ過とてえける不ふ。廣元善信等と始先



と心ある輩へ眉を擡めて憂ふるものなり。平生のいへんを奉る。こまも憐れむ。況て  
 諫を奉るべき。便のあて心との。且暮小苦む。執権平の時政の年老といふ外戚  
 あり。強て諫むべき仕ふ在るなり。あま顔み過小ける心の裡を訝しむこと。議ら  
 れ者もまじりしこと。是より高北條泰時へいまだ若年ありといふ忠孝篤く文武を  
 勉む人勝ると性るれば君廣幡の局とま。只管酒宴遊兵耽りふと悲む。諫め  
 をなす思へども既小祖父ありまこ父ありて。超て諫と奉らん君父の礼も背けりと。  
 思ふものうら及びがて。密小中野能成小対。近曾君の行状さ。小人君の所為あま。  
 竟小國家の言。入在下深く是と憂へ諫め奉らんと思へども。若年の身と思へども口  
 と嚙みこあるものあり。足下小君の寵臣めて。且暮小前小侍さ。身られ折と見合せ國家  
 の為小強て諫めまうされ。元老の諫めより。却て左右の諫と容らるものあり。と亦  
 心竭くと言し。中野の例の奸佞られ。泰時のま。若輩めて君の行状と種ふ。

談と奉ると言せり。頼家小大怒。渠が祖父時政も。父時政も言さぬ。若輩の身  
 の分際。鳥游がま。やと敦圍ふ。多時風。殊小思と思ふ。泰時とて北條へ  
 下。隈小鎌倉へ来へん。固く制し。うけま。泰時父の命。背くべきふあ。されば。彼  
 地小至。て蟄居し。且暮小書と讀て。往昔の人と友と。その徒然と慰さ。あて。  
 鎌倉のま。とき。廣幡の局世と辞て。君の憂の床小沈。夫より後。北條興。遠  
 ざりぬ。とき。ふ人の死と欲が。ね。つ。の憂へと除さ。う。思ひつ。あ。もの。  
 いま。父より許されぬ。鎌倉へも参り。猶北條小居。さ。の頃。陸奥。好  
 城の山論の檢断使へ。北條氏の計らひ。朝夷。秀。近。小。發足。ま。の風。聞。小。泰  
 時。眉と擡め。誠。く。ね。と。既。小。その。と。分明。り。許。を。ま。と。國。家。の。大。事。餘  
 所。小。び。て。あ。ま。ん。や。と。直。小。供。人。の。准。備。す。道。と。早。ゆ。て。第。二。日。目。の。暮。小。到。る。ま。て。多  
 時。何。の。為。小。か。う。遠。く。来。ま。る。や。と。い。泰。時。先。頃。彼。地。下。り。て。后。い。ま。と

此許へ被らねど。言はずるの在り。推て是まで参りては。祖又君の洋謁と許しを  
 言さふらん。何れか知れぬ急の大事と。いつと駐めん。もろけは。則時政へ如此と。告れ  
 時政此叟咲。とも久く渠と。いふ。頃。いふ。不ふ。多時。則ち。泰時。と。突の。二。間。へ。伴  
 るへ。時政。い。よ。と。奉。て。近。く。招。き。汝。が。身。の。上。君。より。各。め。る。ふ。あ。は。し。多。時。君。の。怒。り。を  
 忍。こ。す。頃。ふ。領。地。へ。逐。遣。し。真。忠。の。い。ふ。所。に。此。方。の。慎。の。に。依。違。を。来。り。ぬ。仔細  
 何。と。と。尋。ね。ぬ。泰。時。近。習。の。人。を。遠。ざ。り。風。ふ。美。ま。い。ふ。陸。奥。の。般。城。山。輪。の。檢。断。使  
 小。義。秀。乃。と。遣。は。さ。る。當。家。の。討。ら。ひ。り。と。此。の。真。ふ。い。り。や。と。向。は。時。政。ら。は。笑。ひ。大  
 事。と。い。ひ。何。れ。の。珍。事。と。あ。ら。し。思。ひ。小。夫。父。の。と。あ。て。在。つ。る。如。何。も。君。の。令。ふ。り  
 多。秀。乃。小。令。を。ら。る。名。今。朝。頃。不。發。足。せ。り。と。す。て。泰。時。小。膝。と。進。め。若。輩。の。身。と。り。て。恐  
 き。言。条。ま。い。へ。と。豫。て。も。知。ら。ず。如。陸。奥。の。廣。大。と。且。邊。境。の。ゆ。り。ま。い。王。令。更。ふ。り  
 も。届。く。動。と。ま。い。無。頼。の。惡。徒。威。と。逞。ま。り。て。多。と。生。ぞ。因。て。国。司。の。と。の。他。は。守

府と置と。政と執と。ひ。右。幕。府。の。あ。ん。時。小。總。追。捕。使。の。令。あ。り。守。護。地。頭。と  
 置。と。国。政。と。執。ら。る。泰。衡。が。ゆ。り。の。猶。の。令。に。従。つ。て。因。て。自。ら。征。伐。し。ら。る。の  
 武。德。の。限。を。あ。り。し。中。威。服。を。も。と。り。も。晏。駕。の。後。程。も。経。任。を。成。城。む。て  
 や。動。乱。の。緒。と。ひ。く。是。も。光。仲。武。功。の。り。且。朝。夷。の。内。助。と。い。く。靜。ま。る。同。の。般。城。の。山。論  
 這。回。の。と。小。事。の。似。れ。曾。て。土。民。の。企。す。も。傾。て。後。倉。の。檢。断。あり。富。不。と。定。め。玉  
 へ。り。と。い。ま。う。穩。便。の。沙。汰。と。俟。べ。し。夫。と。背。か。叛。逆。人。の。罪。同。か。と。理。と。靜  
 め。め。り。這。回。檢。断。の。次。身。の。り。て。忽。地。乱。と。曳。さ。る。然。る。檢。断。使。の。下。向。す。之。和。留。島。山  
 の。輩。の。ま。い。三。浦。土。屋。の。属。あ。り。武。功。智。量。の。勝。と。る。老。輩。の。と。の。克。難。し。然。る。と。い。ま。う  
 若。輩。の。多。秀。乃。小。令。の。り。と。用。少。道。と。如。最。多。秀。乃。勇。作。の。り。多。時。專。と。さ。る  
 漢。士。の。智。量。の。試。と。る。や。老。輩。の。勝。と。ぬ。器。量。の。と。官。祿。の。入。目。と。侮  
 る。侮。と。い。は。民。服。せ。ん。何。と。以。て。后。来。の。靜。謐。を。ま。す。や。彼。処。も。既。に。般。城。四。郎。時。直

との守護人あり。其の則祖父君の目と懸らる者なり。諱の字と云賜する規模あれ  
 ども弱官といひ且无才の徒され尊と守護の職に居るは格別なれど之を知りて又  
 朝事頗る才器ありともその威にまじり時直ふ方とも勝てせし。這ひれ自然の勢に  
 強賢愚の界ありとも思准るるも今朝発足するとも羽傲と飛して必ひ戻  
 さんと。何の仔細なき。但一面命令ありと。忽地を改るえと。上る者の恥辱不似れを  
 過て改むる君子の恥さる所あり。遠境尙も乱ふ及た。あまは大事あり。その赤心  
 彰る。言も敢ぬ時政の。林の齒をひき出て呵と。笑ひ汝が才智今始めたるの  
 祖も甘心せり。然るも文程の。吾ももあざざんや。悔て其才の勇を誇。且の  
 才器と恃。賢ありまる朝夷多秀。蹴落しく吳人の。思ふ。便と。此項君の  
 此項君の口誑如此。と。中野が執次。是僥倖と多秀。おの大任と令。上る万の  
 つも絆を異。仕課せ。と。知。仕課せ。と。多秀と罰。

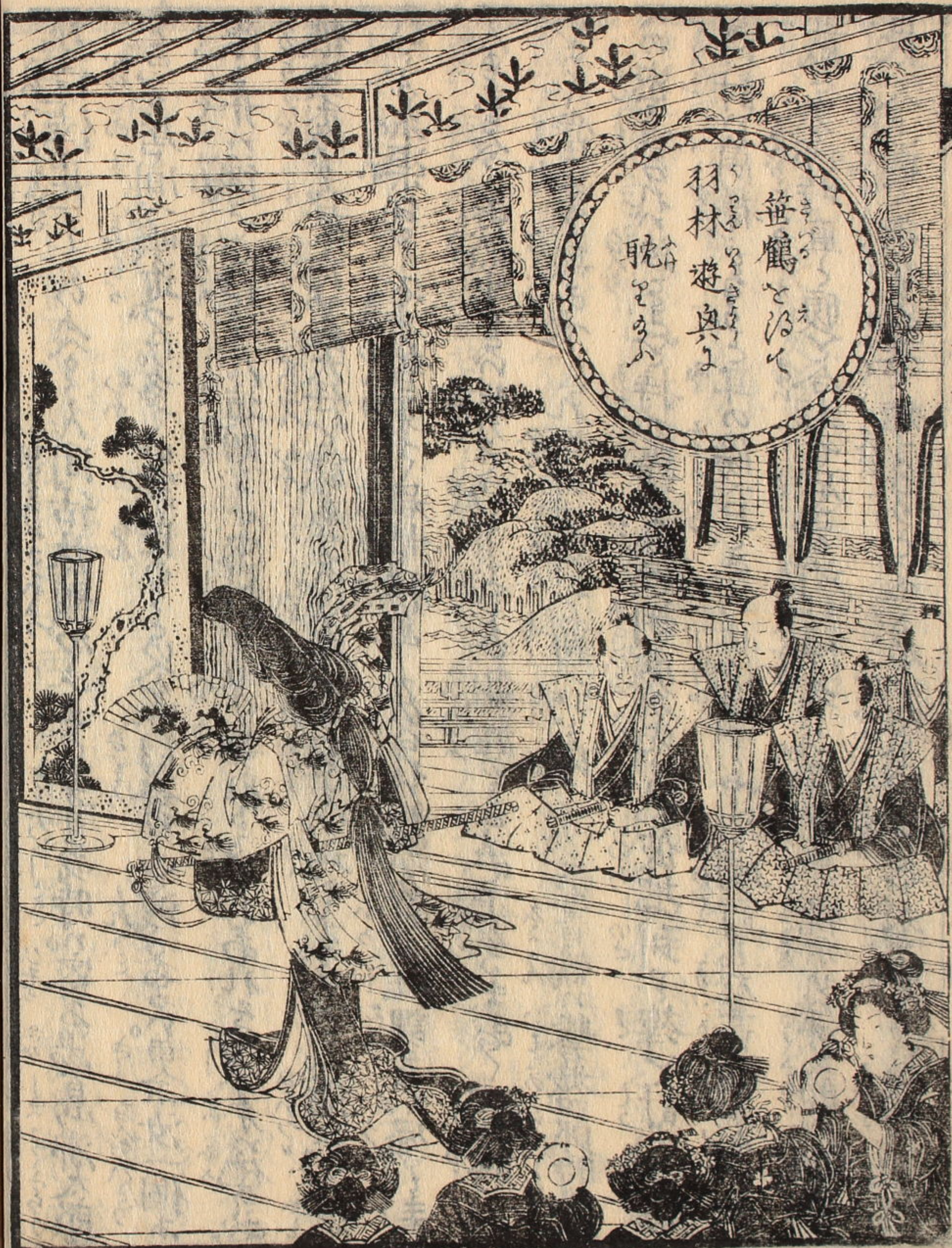
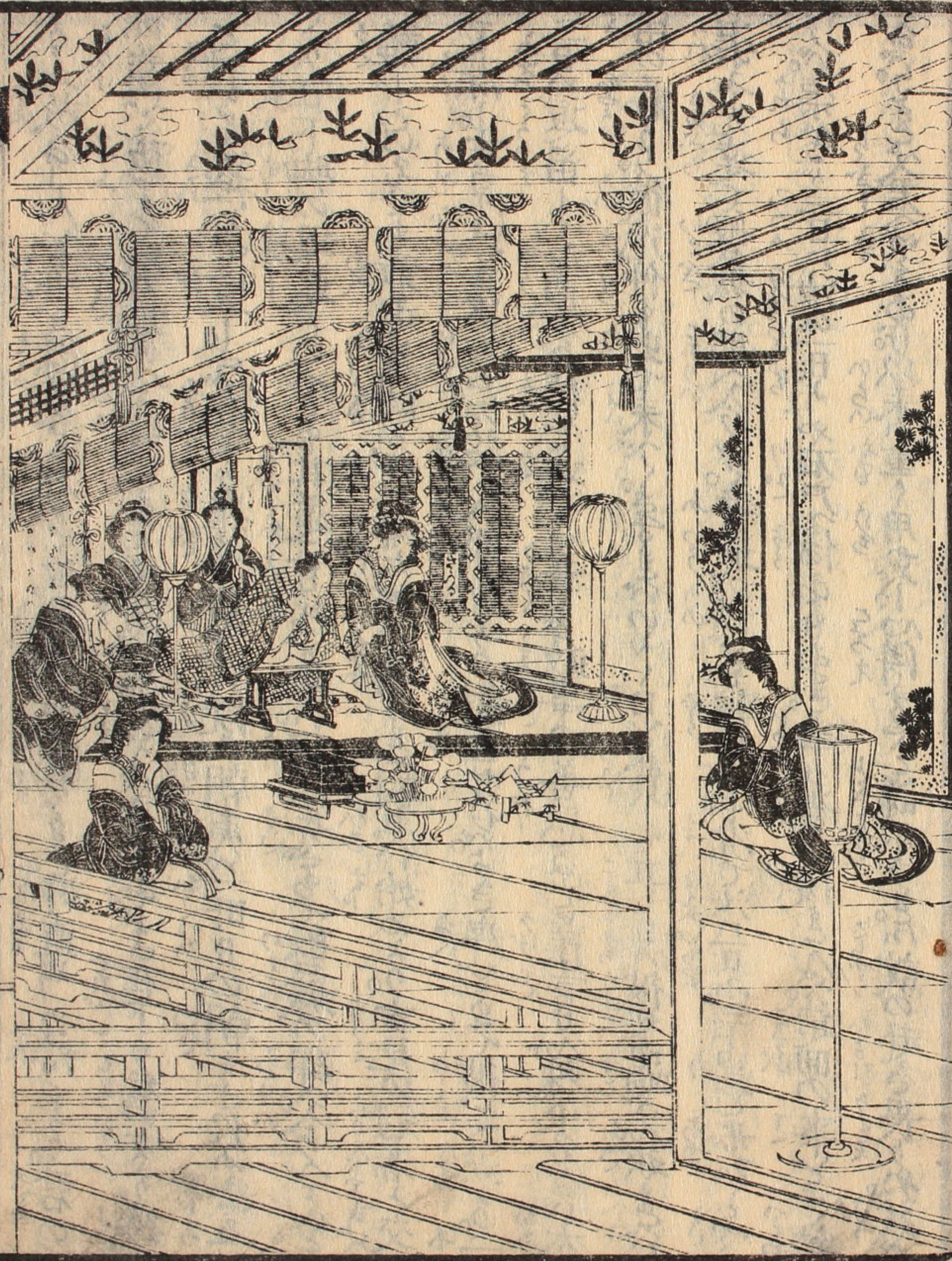
彼奴との憎むあり。その父和田の多盛。右幕府古老の臣。自ら高慢諸士の  
 上。居。と。我意不慕。吾。感と推。と。吾深。思。竟。吾一家  
 の者と滅。と。巧む。の。渠。他。故。其愛子。多秀と罰。と。此の  
 義盛。威自然。と。挫け。諸士。教。と。事。と。計。術。計。ある  
 る。你怪。む。と。これ。這。と。受時。と。兩個。の。他。人。の。一。点。も。洩。ま。き。と。あらねど。  
 你が諫の意と感。機密と明地。お。知。する。と。以。て。泰。時。思。は。ぬ。歎。息。も。言。ま。せ。り。  
 此詞。返。奉。る。の。と。恐。く。い。と。その。計。ら。ひ。と。兼。つ。て。一。向。歎。息。の。他。の。も。是。非。の。界  
 と。辨。へ。ど。然。と。も。その。賢。の。過。る。所。に。在。下。无。才。お。ひ。と。彼。多。盛。と。林。と。を。不  
 上。忠。と。鳩。一。朋友。お。信。多。篤。く。ま。と。下。と。憐。む。の。士。也。実。先。君。の。眼。鏡。り。侍。所  
 の。別。當。不。補。置。と。と。當。然。と。然。忠。直。の。武。士。な。れ。時。お。す。く。権。貴。も。怖。れ。ん  
 已。が。思。ふ。包。ま。せ。言。述。と。あ。り。て。お。れ。お。も。あ。る。然。れ。も。忠。直。の。士。に。國

家の為に死とも辞せん。況や権貴と憚りて。口と嚙らるる張とる物と事までやびき。  
元来心中毫末も巧言令色のみはさるる。然るに権貴も憚らざり。我意を慕ふと宣ま  
ひて。多盛と云ひ計策して遠く退けり。阿黨の小人の進み昇りて後竟か  
國家の大患と云ひさき入渠のて家一族と滅えぬのと宣とる。左様の者おあま當  
家の君の外戚とて。誰う重んずる者もあ。然るに常は仁恵と施し。実とてお軍家  
と神佐一奉るものあり。や謀叛の輩ありとも徳懐きて叛心と翻さんと必定たり。  
況や多盛お於てや。這へ減り十慮の矢もよるれば過おひ。其後さるるのりとのの  
朝夷と召返され。他人の批評さるるの計り。いと怒りければ。言葉と鳩し涙と流  
し。理と推て諫めけり。時政は之を惘然とて。更にお答ふる詞もなき。空嘯きてありたり。多  
時磯と眼と睜と。多と云ふ泰時祖父お討ひ。伶俐振るるその諫言尾籠るも猶餘り  
あり。畢竟家の仇とるるへき。佞人をも退るるも子孫も志を事ゆて。後采と思へるる。

夫等のとも辨する。他人と愛し親族お悖る。所謂悖徳悖禮なり。先頃も生々悖漫るると  
いひ出て。無越君の不貞と被さ。北條へ逐下し。後何の沙汰もあらざる。全く外戚の義  
と思し召し。君の仁恵と恐と。多許すまて在なき。夫も佞も我依るあ。地も未さ  
鳥狩るる。祖父お討。吾と閣と諫めり。さるる言葉。黄口の孺子何とぞ知ん。さるる退  
出て歸るる。今宵一夜もあ館。足を駐りて。无用なり。去来預くと逐出さるる。怒りて  
今更お何と云ひ解術もあ。泰時はいや平伏せま。左右の袖と搔合し。寢ると覺り出る  
間の隔紙多時。自ら磯と建切て。父時政お對ひ。いと无礼なる渠が奉動。然るに怒  
りて。おひけぬ。然るに渠が心中強當家悪く。言さるるおひねる。是時一の戲ま。云  
きて。陪話けり。時政は之を笑と。羊甲斐もあ。腹もさるる。渠もさるる。おや。昔おれば  
餘の子供と。今下り。多時。おの要もさるる。必疎畧もあ。みそ。湯島もさるる。心ゆき。  
其許もさるる。分ちて。今宵の密に領註。翌日夜もさるる。北條へ歸るる。計りおわ。いと孫

思ふ。多時長く湯島お此と分拵。其才も突へ入けり。泰時ハ只管父の怒の  
 烈しけり。心と其処と退出熟とと思ひ廻す。その計りの道のぬい言も足らぬ  
 所為か。諫めしむる勢ひもむ。や腹心の者あるとも。他へ洩ささすもあはね  
 心不款き。夜陰とて武吉何ぞ忠とてわんと。即供人と促とま出んと。折湯  
 島沸太郎馳来。今も出まると。道の程も便る。実ハ大刀拵と今す  
 られ。夜と明と。出ませるべし。其内意と告げし子と思ひ。親の心恃る  
 却て孝る。と。かの沸太郎の隨意。あの夜にも明く。習音北條へ出まけり。  
 中北條父子奸謀憎ても猶餘あり。吾と滅えとする者ハ盛なりと。盛  
 め。果も後年の和田合戦頗る先見の智あるに似言。北條氏世々執権あり  
 ち。慎と守り。誰の言と犯ささ。威も慕て。君と凌ぐ。悪行超過  
 至とる。故の。と。北條氏の高運。西三度冠ハ伐勝。竟ハ九代の榮耀と究

侍甚。このへん。人間估休。顯かて。その習音。多時ハ密ハ湯島沸太郎  
 と。この居間へ。喚迫げ。多くの家臣あり。このも。内容の。洩さる。更ハ汝一個ハ  
 限る。開い。豫へ。心け。ん。這回。ま。密計。と。汝の。委ね。さ。を。あれ。その。次弟。ハ。他。の。出  
 彼。多。秀。乃。身。不。志。か。ぬ。大。任。と。課。ある。ハ。必。定。渠。が。過。え。ん。と。巧。き。る。の。ま。が。猶。熟。と。思  
 ひ。る。ハ。渠。の。く。ハ。才。智。閑。く。昼。量。勝。り。の。れ。れ。想。ひ。の。外。ハ。仕。課。も。帰。と。未  
 ん。も。あ。る。今。も。然。す。ま。此。方。で。巧。く。こ。こ。の。齟。齬。の。ま。ま。渠。が。ま。ま。功。小。誇。り。と  
 の。ハ。當。家。と。無。ま。べ。これ。の。謀。計。と。新。小。巧。と。知。し。り。の。書。翰。ハ。般。城。四。郎。時。直  
 への。密。書。る。れ。汝。を。持。て。路。を。急。ぎ。朝。夷。の。先。を。彼。地。へ。到。り。緯。と。計。し。よ。その  
 謀。計。ハ。簡。様。と。ま。り。と。耳。の。傍。へ。口。と。つ。け。代。語。と。や。半。响。計。の。尤。書。翰。ハ。永。女。も  
 載。り。你。時。直。と。腹。と。合。あ。て。足。る。所。ハ。神。多。ハ。心。遣。り。や。説。示。せ。沸。太。郎。ハ。額。着  
 畏。今。逸。と。乘。り。ぬ。在。下。短。ち。り。とい。の。か。く。大。事。の。密。と。委。ね。の。ハ。根。性。と。又。宛



笛鶴と沼に  
 羽林遊興  
 耽りまふ



夕の故ありんと争ふ跡田各存ぞき其段心易く時直めい後てより。君の  
 小蔭と被りて。磐城の守護とありぬ。鶴思忘るべきありま。在下も舊友あり。絆  
 と計る極めて宜し。在下も難多し思ふ。既朝夷の昨日の朝まどれお出立  
 ち。在下脚の迅速といふも。其道三日後まどれ。渠小先まどれ。磐城の郡へ入りてい  
 難し。いそぎも取ま多時。開け。津太郎心易く。朝夷始めより。吉見の冠者と交  
 互深し。吉見武彦の石臼の莊へ入部せり。対面せむべき序とめて。彼処へ立より。二  
 三日の逗留して。舊友の情と述ま。吾も政事の善悪と。陰言言入。殊ふり。い太  
 田の莊より。彼光仲も出て来べく。まよひのり。日と費して。五七日の彼処へ過き。然もい  
 渠小先達て。磐城の郡へ入りて。普通の者も。輒か。況て汝は日小。三里と歩むと。彼  
 け。渠等が三日の沙の一日。や石戸へ傍も。あま。争う。渠小後ま。この。這回  
 の事と。勅  
 あり。ま。父君。ま。あ。げ。以。来。重。く。用。ひ。下。心。得。る。や。と。説。示。ま。い。説。の。赴。き。畏。り。の。然。り。

今より出立。絆は仕課甚心。休め奉りんと。い。は。し。ま。ど。り。時。荒。示。と。貞。頭。預。て。ま。簞。首  
 の裡より。黄金の包ぞ。是は路費とす。彼地不在。あ。い。高。時。直。より。受。取  
 べ。との。小。津。太。郎。の。額。着。つ。う。の。黄。金。と。稟。収。め。預。て。其。処。と。退。き。ら。る。元。来。家。族。の。分。身  
 され。か。折。心。易。く。時。刻。も。移。る。旅。装。も。傍。輩。の。心。願。あり。今。より。榎。島。へ。参  
 籠。す。と。依。初。小。暇。告。午。の。貝。の。頃。ま。い。後。倉。と。ま。て。足。不。仕。と。走。る。程。武。彦。ま  
 なる荒川の渡口。今。ま。未。お。ける。時。い。ま。黄。昏。て。出。端。へ。月。ま。白。く。う。せ。る。津。太。郎。の。川  
 邊。枯。草。と。霜。を。死。船。や。あ。り。と。向。ひ。と。ま。い。渡。し。船。と。思。ふ。く。人。而。入。来。て。ま。これ  
 使。侍。と。小。さ。招。き。ま。ど。あ。や。喃。と。呼。か。ま。ど。志。と。回。答。し。船。漕。を。旅。人。川。と。渡。る。此  
 首。の。嚴。ま。き。旋。あ。り。日。暮。て。人。と。渡。ま。ど。我。們。太。く。罪。せ。ら。る。氣。の。毒。も。あ。り。扱。ひ  
 が。と。言。捨。て。ま。と。艚。を。と。遠。ま。呼。ま。吾。の。急。ぎ。の。故。あり。と。一。刻。の。措。置。を。死  
 不。夜。の。渡。り。と。ま。い。便。り。又。ま。い。他。の。人。も。ま。い。吾。と。汝。の。ま。い。旋。の。あ。ま。い。と。

誰か見ん見ん各々鄙人の兎角物頑心ひて。かる類ひのいと多ぞ密小此  
 首と渡す。労働心お仕せん頼り来せよと切あてり。かの船長は漕  
 馬奴船頭乳の人。世の憎むと吾們の。さるの邑の農夫。旅稼する轡  
 類ひ寝徒言りの。ねど所の投と背き。か身と彼首へ渡さの。労働の多  
 寡。心任せと宣へど。方外。今。船。三。個。あり。そ。中。人。三。十。百。の。黄  
 金。と。恵。ま。い。快。く。向。ひ。の。岸。へ。渡。す。し。て。渠。多。く。足。元。者。あ。け。る。と。心。不。怒。と。密  
 事。を。使。る。黄。金。と。惜。間。と。い。物。を。画。餅。と。し。ん。と。思。ま。よ。く。望。し。小。仕。を  
 下。ま。る。其。船。と。岸。へ。着。せ。と。頼。り。漕。を。及。其。黄。金。と。や。り。え。ま。う。ん。と。て。乗。ん  
 づ。か。を。疑。ひ。深。き。奴。等。と。し。口。裡。お。吐。き。ま。ぐ。洞。卷。の。結。目。と。解。き。教。の。如。き。や  
 我。て。乗。せ。る。是。と。信。せん。の。船。長。心。を。水。掉。突。て。か。く。と。岸。を。着。せ。沸。太  
 郎。囚。り。船。へ。乗。移。り。平。生。ま。う。五。支。文。暮。さ。り。三。十。百。餘。り。過。り。船。賃

る。ま。急。ぐ。ぬ。路。を。跡。戻。り。絹。布。の。横。宿。女。と。左。右。抱。て。寝。る。と。も。あ。れ  
 程。の。入。目。の。じ。と。京。と。ま。ま。空。を。一。個。の。船。長。と。半。員。と。改。め。京。奴。の。船。を。さ。る  
 船。長。頼。り。水。掉。と。操。り。程。船。急。地。の。川。の。真。中。を。出。せ。り。と。當。下。前。の。大  
 漢。士。が。衝。を。あ。り。て。声。を。揚。諸。も。放。入。り。ぬ。路。費。と。多。分。持。り。吾。們。當。野。の  
 農。夫。も。も。日。暮。と。此。首。と。渡。さ。法。度。と。い。ひ。も。語。を。笑。み。旅。人。の。懐。を。試。ん。の。計。杖  
 をも。お。ん。身。を。懷。中。取。り。と。洞。卷。の。重。い。お。開。と。来。く。時。を。い。命。ま。う。り。佐。と。い。ん  
 去。来。頼。り。と。罵。り。沸。太。郎。は。怒。り。も。忽。地。怒。り。眼。と。睜。り。穴。子。の。れ。を。さ。り。い。ん  
 吾。の。後。倉。殿。の。内。に。馬。一。匹。の。ま。り。と。穩。密。の。令。と。被。り。北。へ。と。往。り。の。身。と。女。の。眼  
 あり。ぬ。頼。り。損。ひ。る。愚。人。們。と。此。首。と。排。御。と。強。盜。引。刺。と。考。ま。奴。難。子。も。暗  
 ず。い。ち。ま。せ。り。自。ら。名。告。悪。業。と。も。逸。首。と。も。落。川。辺。小。島。で。后。来。の。誠。と。は  
 吳。ん。と。左。の。小。鯉。丹。け。衝。え。り。物。を。流。倉。殿。の。内。に。も。鈍。刀。の。尖。又。も

夫と恐る一日の活計があるさう切ら見事切てんよとのいも果さん  
身と死ぬ腰と繫と抱き味めま湯島まで振解く後小亭る僻者う刀の  
鑑と下と楸背の支燃あけてにほど伸し懐の胴巻とんとするよ湯島の  
とと繫と楸筋斗ううと楸んまを折一個湯島が橋と蹴揚て船縁へ  
撞と倒せ湯島への多堪を尻佩刀とすうと投てさとうち揮う太刀風を  
岸の儘を枯苔もまを計ア入をえけま三個の賊の怒地を駭き怖とて文と飛  
入る水の水煙を繞て三個飛入る往方ももるりりるを沸太郎の船端小足踏  
るう水面の雲時白眼呵と大笑を投者め龍の腮の珠と取りと鰯の鱗  
似る懐の振も水底潜水船の敷板操技とる吉の王支と吾の食人些とも早  
く舟と四逆とるる水掉あり見と操と漸に向ひの岸を看き汀の枯草  
踏も死踊り揚りて宵月の四と信と入るを怪しき影もあられ今と心易れを

途と早めつ性不ど僅に里餘と過て幽なるまが白草の立並ひる所ありや入里も  
近つる腹をいり空る小まが此処ゆく食と索め月小舞して終夜走るも難きとらはと  
元来大膽不敵る心くこと怖る色もや近つて入るまが此の驛路を林  
るれも両側の家数多しも列するうまの時刻のや遅さう太刀門と鎖を酒食と索  
むる家もつるも是れ不りく當惑りて性もまの半段餘まが旅店と覺もるも傍の  
戸と鎖を出入の口も閉ぎて麁の端を王電あり大さるる鍋とひ入五六人田坐  
の楸は何も盛てり沸太郎は是れをり飲たうさ踊り入り吾も急ぎ旅する者  
よと厭と来しとも飢と困り酒ある散やあま其れも食へき  
物のあまの頭切てよといひまが傍の床机小腰をかかまの婢女とあま茶碗  
へ温湯汲て来つるも三更も近けま大方枯れあて進りゆりも多るあま遺る  
二種三種の品あり酒の杯も望まら進らせんといふ湯島點頭て酒もあま

二種三種の故で緯の足らん頼りかねを急子不とあめ婢女遠く魁の美甚  
弱と平蕩の煮る血盛る白泡の浮く鄙酒と湯桶次でり来れまその香へ紛  
と鼻と穿る湯島大飲ひて茶碗へ波る酌で盛る口飲し面を皺めあや女酒の  
少酸く味ひ淡く池田伊丹酒樽と洗ひ水猶倍より酒あつ價論は  
傾引換て持て来よとの婢女あや笑えさの歩を酒の思し言さぬは  
猶醇酒少貯へ持ても下酒を以て價貴く普通古物あやめ始より進  
らる然らば引換あやせんを昔あや魁子へさめ来れば湯島口飲其  
味ひ実小飯菱瀧水の味も起る醇酒を舌あやめ稀代か鄙かちり醇  
酒あつ思ひあやめ是飲る足腰の勞も傾引換て来よと殊小魁の美は  
味あやめ初物多と頻る飲ひ魁子換を美と換えち食を半酌許元来強酒をさ  
小臨しとの小油の如き濃き酒と量もあやめ飲る二分の酔と後と吉  
廻るあやめ

續輯第四 英雄大言旅客 説來歴得密書

か、おがしまろくすつろ 斯て湯島沸太郎信と心づきて思ふ事。大事の使と請る。太くも酒酔ける。遊莫  
ら威勢小。走る五里の道へ輒往る。嗟れ心地おるけり。傾て婢女と喚ぶ。け  
價と問ふ。此と。言をふと懐へ。さうの胸巻と搔探と。お障ら。以前騒  
ぎ下へや落し。猶泳く。さうの腰の廻りを探して。お小つえね。且驚き。且訝り。  
思ふ事。高小這奴を。お人せ。と。吾身を沈めて支へ。さうと空あけて。奪れ。勿論腹  
へ掛り着て。落なき。さう。さう。不測と。さあ。帯ひき解き。さう。さう。如何  
袖袂探せ。更におある。さう。さう。使は。這奴を。お奪り。さう。さう。念を。さう。さう。齒  
切れ。さうの甲斐。さう。さう。この價と。拂り。許さ。さう。如何。さう。物り。さう。  
沈吟。さう。詮方。さう。さう。其。さう。と。通。さう。さう。と。婢女。さう。主人。さう。逢。さう。

りといへ主人とんえ年頃二十九の大漢子がつくと来りてその傍に腰も掛て  
客人何の用ある主人則已さる。とて放つて會釈もせん其処を廻り居る景  
勢近曾无礼なる奉動と心五分の怒り萌せと并々答ひるに後よりと胸の  
ゆて言葉と和らげ吾の強倉より陸奥へ殊小急ぎの要用あり往者あるが爲暮及  
び彼処の津で引刺さる。悪見さふ端さく會般渡り取んとするに吾も嗜然  
本事と出で賊等と懲りその場と。雜り過て未の飢るまふ心急き酒食を  
りてその價を償入ると今もまの腹小拵せり朋卷の。諸の這奴等と挑しと端さ  
夫と奪りて。夫小聊心の着を飽まで食ひ斯の酒食を貪る悪見と思ひ  
まんこそ武士の慚愧も堪ぬ所為るが。実今更ふ詮方る。吾の強倉刀録の内  
あて二の人の世も花明ける。何其刀録の家臣仔細あれが主の名も吾名の今い言ご  
けと。縛果て後あ処と戻る折小立寄て信と丈程の報いませ。今宵の價

其時を在下小借てよ。餘もるげふ言から。言葉もいも畢らぬ此家の主人の  
眼小用え頬張らく傍とる。此頃の物志心侍と油断あるま。錢もて飲食  
鎌倉刀録と益小着て。價もかを往らす。高小い牙津場と出會りといふ引刺ら  
小一段倍する光根の。あつし。鄙之強倉等とこそをわね酒杯でも錢も  
飲せよといふ觸も未す。天四海の文倉生と恵もる上小主人の心とつら。鎌倉刀録の  
内入の錢金も酒飲でも。よといふ何時の世小誰と極てかまらや。無益の狂言のん  
より。傾置て往り人吾懐小物ある。亡もかぞ口様。酸の甘い活物小雜餅付くも  
喰ひ。二つ小牙の腹小入ると返さんと得返さ。飽まで朝け言葉の端と憎さ  
憎まるとも。身小大事の要用あり。元未已が過失と思ひかへて猶種と言葉と竭  
きて陪話と可。果の益も声る。光棍と侯白と散小悪口すればこの時湯島赫  
と急きて酒気十分頭上弁。身小怖もち忘と傾て刀の柄へま。身小誤

言とて喝して分解すれど、言とて光棍と侯白とて  
 武士は對ひて雑言過言を多し捨つるなり。と言も果を抜んとする。その腕際と  
 推留め。やよ者とも理不尽の校侍と搦めよ。呼る声も少敢を効の士奮ふ口坐  
 る。轎夫馬奴五六人破驚ういをも誦せんと。身構ひり、折られ、應と回合の間  
 もあせせまて。前後左右へ群と追う。搦と湯島一期の浮沈と身を遠巡足踏を  
 て衝えあがり。刀と抜放てど。泥の如く酔う身。肋骨弛く自在をいせ。眼と  
 睜ののののど。どう圍とう。轎夫ら。矢度小刀と放放。在る索もく、捕足捕らる  
 撲ふあはけし。心跡武小早とど。居所の羊の支る、悔むとも詮方あり。當下主人は  
 音あひ、眼と怒り。信と白眼て。あせ、後倉倉刀柄の内なる、欺き威すい吾といとも  
 愚の鄙人と、侮れ犯すの事をも。果に酔狂ひの又物三昧いなる意趣を誰とて、砍  
 る。油のやうな酒并舍利多し。飯五杯喰せ。代小款とて。鄙人も馬借下合す

いさぎよく、袋の鼠猫おとして慰まん。あけ太後、す此處で獻酌し、筒茶碗を  
 把て飲せり。湯島いこの時、全身索ふ撲つて。動くもさへ、され、只管呆れて物  
 ぬい、いさ、當下かの轎夫。主人對ひ言を事、這奴憎き悪けとて、他、愚に成せし  
 ぬ、あ、刀の技とも、傍侍小傷られ、老より。も、夜三更向を、以後の懲る、あ、  
 ある息杖四五本食り。追放えい如何と、い、主人も、今、五七分の酒氣元、衝立ち  
 あり。汝、がの通や辛き目とせ、遂放つる他あり。とて、其棒、あ、おせ、かの息杖  
 とおつ搦て。あ、んとする。湯島い、悔、に辭せん方あり。身と足掻、ども千助の索、小搦  
 めら、ま、魚屋の鳥、ま、如何とも、術、い、主人の漢士、棒、あ、揚、巻、の臂力、を、究  
 め、既、小敷、まん、と、あ、け、り、此、方、の、隅、紙、さ、りと、閑、て、右、も、小、雪、洞、提、つ、や、と、侯、主  
 人の、人、と、あり、と、あ、け、り、を、あ、ら、ま、さ、し、宵、小、宿、り、旅、人、あ、て、其、名、何、と、あ、り、よ、う、真  
 弓、執、り、武、士、の、後、倉、松、と、あ、り、と、あ、り、その、年、齡、も、若、く、ん、四十、の、改、と、あ、り、の、五、十



ふ近く入えぬがまづその棒と傍をかき。吾仮初の宿をきて。拘らるる死すありあ  
ねど。相見送の由縁とて。又捨らまはる。最前より。動静と彼処でまきけ。酒食と做  
まて。銭とちかき。往きんとすと。誠むとう。その商人の恒ありて。此方小のう。非道いあり。然  
れども。吾思ふ。苟より一銭の貯めて。酒食と食ふ。老いあじ。開いとの。今寄て。此  
人必も。然らば。殊小夜目めて。面体と。定ふ夫とも。然難かり。今近寄て。此  
小在下。傍て。怒り。ちかき。知已さ。ずとの。所り。同ド。孫倉小住と。思ふ。他も  
過ん。いとも。快く。後。ま。其酒の代。在下。あて。償ひてん。まづ。その。素の。解。不礼  
と。陪話よと。雪洞と。其処。小置。かの。素と。解。湯島。湯太郎。い。ま。安堵。する。め。の。と  
瞳と。定め。て。う。り。ま。と。其。面。と。誰。とも。あ。ま。不。措。暗。ね。と。急。難。と。救。り。ま。る。娘  
あ。ま。額。の。汗。を。拭。ひ。も。あ。入。を。所。り。同。孫。倉。小。住。なる。人。と。宣。へ。と。吾。い。ま。面。と。認。む。  
あ。ま。あれ。ども。今。宵。の。時。宜。計。ら。ぬ。麻。心。の。憂。耻。と。救。ひ。ま。る。辱。守。る。ま。娘。と。い。い。今。更

小面をせめてい。この此方の武士も。その処小坐として。認むれを。道理を。在下。い。る  
彦も。それ。倍。臣。の。下。臆。あり。これ。ども。武。士。の。端。を。ま。れ。が。相。見。送。と。や。せ。り。ま。る。い。ま。主。人。の  
賓客。が。酒。の。價。へ。裁。許。を。今。預。拂。ひ。ま。る。と。夫。小。就。て。い。い。と。あり。價。と。取。て。物。と。活。  
是。商。人。の。恒。ま。る。引。刺。小。出。會。奪。り。ま。る。と。武。士。が。詞。と。申。て。い。い。と。可。と。ま。  
捕。足。捕。縛。り。て。猶。その。う。小。棒。と。も。て。辱。ま。る。と。不。仁。と。い。い。も。餘。り。あり。その。價。ひ。と  
が。償。ひ。汝。們。小。言。分。あ。じ。い。と。是。より。い。の。賓。客。が。為。小。耻。辱。と。雪。ぐ。べ。覺。悟。せ。よ。と。い。ひ。も  
果。ね。ふ。主。人。の。漢。古。北。叟。笑。ま。る。在。下。か。る。小。民。の。と。も。夫。不。ど。の。理。と。知。り。ま。る。知。ら。ば。何。故  
斯。の。と。ん。と。詰。ま。る。と。答。も。せん。博。識。人。小。聞。と。あり。堯。舜。の。民。い。堯。舜。の。心。の。あ。り。て。か。と  
する。も。多。質。直。り。て。曲。ま。る。と。み。傑。紂。の。民。傑。紂。の。心。と。ひ。て。心。と。する。も。多。暴。虐。り。て。直。を  
み。今。泰。平。の。世。小。和。ま。る。も。その。政。柳。營。小。出。を。獨。北。條。氏。推。と。執。て。と。が。ま。非。道。と。行。う。  
人。北。條。氏。の。あ。る。と。知。つ。て。將。軍。家。の。あ。る。と。ま。あ。小。於。て。人。の。心。只。推。勢。と。逞。ま。る。と。貪。ま



掠むる工と旨とを両刀とて帯しぬまは北條刀称の内なるぞ偽構えて酒食を會ひ  
或い金銀米錢まで掠め取らんと巧む者徘徊すると数回あて持悒あひごと若も  
まご真その筋の人をい彼の宗やあんをと思してその音心不陸ふありその宿客も  
その始め名とこそいえね強倉中。三の人の臣下ありとまづ其権と倚かう。借とそ例の  
校者ありあとの痛く計らふのゆで強武士と侮り犯すの心あはるる素より人と  
いひ放ち。自若らるる面魂。凡者もまごといへけい。その武士も重ねていふ沸太郎い  
巴が主の北條家と悪さるふの罵りまご心中怒るといふ明と地する使ふまご身あは  
ぬと顧るのころまご。あ武士の何者ぞ。若荒そ名謁する。時宜不むは是もまご。面  
倒まりと心不汲と。故意と呵とらあ。北條刀称と怒ると。奸佞あはるる。當  
時威勢強けまご世の嫉と悪さるふの倣と族も多る。まごのひ。此方ふる。當  
在下が為小這奴等と。懲あて耻と雲がせん。の好意の嬉しく存おまご。実在下懐

中ふ有らるるもあふ。酒食と倣せ。此方の鹿忽被等が无礼と太く外目め尋  
で麻忽心も見らる。埋られは是までゆ。唯止ると思ふのと。右の價は足下より。在下借と  
借用せらるる。孫合へ飯と。後何方へ返一言。苦く。貴客の姓名。まご  
といひけまご。かの武士の頭とら。揮。争まご。及ぶ。心な。け。まご。若縁尺と。再  
會の期。まご。如何。報ひと。倣。まご。急ぎの。旅。まご。子の。刻。まご。近  
し。預。まご。湯島強ても。問。然ら。その。譏。倣。好意と。默。止。不  
ま。宣。如。まご。の。旅。昼夜の。差別。まご。の。帯。ひ。まご。の。腰。下。まご  
排。まご。の。禮。と。迹。まご。の。行。まご。の。漢。士。の。迹。まご。の。送。まご。の。呵。まご。の。笑  
ひ。まご。の。空。戯。まご。の。校。者。の。あ。まご。の。腰。下。まご。の。刀。あ。まご。の。錢。も。持。まご  
飲。食。倣。まご。の。助。小。枯。鹿。まご。の。鼬。小。逐。まご。の。鼠。小。芥。一。尾。と。揮。て。逃。出。まご。の。孫。合。あ。まご  
二。と。称。まご。の。家。隸。まご。の。二。と。あ。まご。の。北。條。まご。の。和。田。島。山。の。人。まご。の。箇。程。不。覚。まご。の。家。隸

と持たふを笑止るれ。まゝ呵とちぢ夫ひい。心着て此方とあり向き賓客今宵ハ  
 異みとみて。園らぬ造作と懸まわじり。折渠と認まる人と高小作の誠小ありや何  
 この家の郎等と。と問まて此方の武士と。ち點頭て吾も定ふ。其姓名と。おらね  
 ども。北條刀称のに。問るる。如何なる。筋も。夜陸不及。何方と。うて急ぐ。凡そ北  
 條刀称が。當時の威勢。將軍家も。插か。を。故。小。家。小。仕。する。者。の。名。も。下。臈  
 も。威。と。揮。ひ。あ。ち。諸。人。と。迷。惑。せ。む。我。も。今。宵。その。身。も。と。深。き。過。る。も  
 せ。よ。か。く。穩。便。ふ。去。り。足。下。が。僥。倖。あり。思。ふ。小。渠。の。密。事。の。使。ひ。も。五。一。の。の。長。  
 然。も。あ。ま。ま。の。錢。り。と。此。公。の。体。ま。さ。き。あ。る。所。り。と。う。も。北。條。笑。賓。客。ハ。北  
 條。刀。称。と。太。く。も。怖。ら。る。る。開。官。録。の。あ。る。故。も。吾。の。野。外。の。小。人。百。の。東。西。と。言。で  
 賣。僅。の。利。と。ひ。て。その。目。と。送。上。小。君。と。い。者。も。下。小。眷。属。と。い。の。の。れ。推  
 貴。も。あ。ま。怖。ら。る。る。雨。風。小。往。来。途。絶。え。其。日。の。鏹。一。文。の。商。ひ。も。仕。入

魚の饅とあり。あまのこを怖け。とま。呵。とち。笑。然。の。く。世。の。諺。も。長。い  
 の。小。美。と。と。今。宵。の。一。奉。の。賓。客。心。も。よ。う。て。彼。此。と。も。小。穩。を。濟。の。僥。倖。あり。  
 その。飲。び。小。残。の。散。で。夜。と。俱。小。飲。明。も。是。の。者。の。の。里。の。牛。馬。小。も。あ。く。身。と  
 働。り。賃。錢。囉。あ。く。その。目。と。送。無。下。小。錢。さ。の。の。も。れ。れ。小。作。法。い。え。り。あ。る。ま。  
 无。礼。と。許。し。て。末。席。小。侍。ら。う。の。慶。も。ん。の。小。武。士。も。ち。點。頭。鄙。人。の。奉。動。无  
 骨。も。れ。と。も。正。直。の。心。の。あ。う。方。の。結。句。樂。さ。の。の。の。の。の。去。来。も。此。處。来。て。一。献  
 酌。や。と。唆。も。さ。と。下。坐。小。田。居。の。宴。時。酒。宴。と。做。け。る。この。家。の。主。人。と。人。の。哥。の。と  
 称。へ。り。教。る。ま。と。大。の。主。の。渠。も。と。今。親。と。宛。然。奴。僕。の。く。も。る。その。さ。な。如何  
 小。由。縁。あり。げ。も。ま。凡。者。小。ゆ。じ。と。え。も。の。武。士。の。貌。と。改。め。始。め。の。家。へ。宿。り  
 時。より。今。小。あ。る。ま。足。下。が。舉。動。心。と。着。て。と。小。初。の。小。元。来。の。活。斗。と。世。と。送。る。ま。と  
 人。品。も。思。ふ。深。き。故。あ。る。と。小。初。の。旅。宿。も。素。性。と。問。い。卒。爾。小。似。と。と。

苦うづへ月一のひひて笑て先人の姓名を問んとする。吾より先名掲げらる。拵  
 されば後倉ある。和田廷尉の臣下して腰越殿六郎とありのく。その身短才無能小老。  
 数年彼家不在る。いまだ下鴨の域と離る。名場も面目なき業あり。這回朝夷及  
 秀ぬ。使不きて越のまゝ。岩林の所不赴き。是より孫倉へ飯らり。足下等も及  
 びん。和田殿一家の英雄也。何ぞ不思る。さりのる。朝夷ぬ。殊さう。小傑お  
 弱官あり。近き頃まで諸を遊行し。その先とて功名と著し。人の辱せり。さるる。小先  
 頃鎌倉へ飯らりして程も。將軍家の昵近不擇り。入と隨従り。水草城戸の西士  
 の。その家隸と称すれ。是より思願の者あり。あま。信太の莊司が舊臣也。彼小臣  
 下の列あつ。若しこの世の埋りて。隠るる。小も英雄あり。若若なる。人の。臣下小  
 せんと縁て。も望る。る。所なれ。か。曲問の。こと。その未歴と。又曲小説。偷せ。此処の  
 主の欣むと。とく貌と正し。その賓客は和田刀称の家隸也。在る。宣ふ如く。朝夷刀称の

武勇の縁て。及び縁と繋りて。二回の見参せ。慮ふ。の。聊仕出。あ。も。推参。を  
 る。拙き。身と。銜ふ。似。され。い。も。果。を。端。さ。る。も。貴客と。宿。且。今。宵。の。騒。き。ふ。ら。う。  
 か。條。と。兼。り。る。こと。も。あ。ら。う。その。侍。侍。の。折。ふ。あ。ら。う。推。奉。と。恃。言。さ。う。在  
 下。去。ぬ。る。年。木。曾。殿。俱。利。伽。羅。峠。ふ。も。で。平。家。の。大。軍。と。戦。ひ。た。ら。う。その。み。小。属。と  
 高。名。あり。岡。田。の。冠。者。が。李。の。子。也。知。名。と。別。者。とい。ひ。さ。然。る。小。當。下。又。冠。者。平。將。知  
 教。と。組。討。と。俱。不。深。溪。へ。陥。ひ。て。泉。下。小。徴。忠。と。尽。せ。ら。る。う。功。い。あ。ま。も。賞。を  
 う。け。ま。在。下。その。た。五。歳。あり。母。の。懐。お。抱。ま。ら。う。信。濃。お。あり。う。程。の。あ。く。木。曾  
 殿。栗。津。小。失。う。ひ。て。刺。へ。清水。義。高。の。害。な。ら。う。一。程。な。れ。餘。黨。の。詮。撃。嚴。く。て。  
 故。郷。お。足。と。駐。め。ら。う。此。処。お。由。縁。の。人。あり。と。り。夫。お。便。り。て。母。諸。共。幽。小。送。り。て。時。と  
 俟。ふ。在。下。十三。歳。の。秋。の。頃。母。の。病。お。世。と。辞。つ。二。年。と。経。て。便。り。つ。る。人。死。て。あ。の  
 家。の。迹。と。嗣。へ。き。者。も。な。ら。う。里。人。の。勸。隨。意。と。即。其。人。の。迹。と。嗣。て。此。処。お

旅店の活業のまゝのさぐり此も亦朽さんとして傍でも思ひ悔く是等の者  
 ともまゝ此他も志しと同ぢうするもの数多あり。若近國小乱ともあつた馳着  
 てくる名も發せし家と興さんと思ふ心ありき。邊土ありて行届らん然れば  
 稚名の剛若となんとも似つう々ねい前の子の名と續て今い猛八と喚ばる異  
 母兄岡田七郎。今猶信濃小在と云と腹悪く恃て。故小當時の訊せん  
 訪ともせざりてあふ居まう。とつて腰越の坐と峻巡高より小奉動。凡そいと  
 思ふより。卒爾さうも同系すまの果して筋目正さる。貴人少在けり。実ふかの  
 騒ぎさうせし。夜初小往すまで。問ひたれもさうきと是を值偶の然らしむ所  
 あやうらん。頻る小歎息して止む。當下猛声と低り傳えき。彼人の和田刀称の三  
 男と世の披露と做さるのう。実の木曾刀称の亂ふと巴が捕つと小就を死  
 既小胎孕てありし。小破さるや知りて。尚その言の如く。父と父と親と深ういそ

疎くや過行べきとの小腰越えい開誰とも言を所在下彼処不在ま。元来下臆の  
 ところれ。夫等のこと曲はま。甚とどり今より。名や十年のそのむら。幾少のりハ三歳  
 して。物も得ひひる。殊あ多病さるとめて。廷尉いとと疎と。鞆給は毒小まの  
 兒と。出家ふせよと宣ひし。母れいしく本意多思。てその頃彼処小務。乳母某  
 小ふその子と委ね自害して失ふと申ん。かくて某も若子と抱き在所へ落んとかまら残。  
 彼逐苗よと廷尉が今。在下野兵の頭とありて由井が濱を追著る。小僅三歳多  
 阿左丸刀称。乳母の懐小拘まらる。その怪力の蘊れ。とらる。及び難くを在  
 下もうち擲らま。凡ゆるじと知らる。其後の強ても逐ま館へ飯と云こと。輝の  
 赴き訴へし。廷尉も今い。そのまは拾置まらる。去年如此このとふ。再び父子  
 對面し。當下よりして將軍家の既迎といまられ。まより後も由井が濱。刃小懸と  
 捕小做し。益と武勇の誉ハ高う。若かの刀称小見参せま。思ひつ。ま真

盤纏を失  
湯島酒店に  
窮す



る。在下と諸共録倉へおきよらん。然らば準備のその間、逗留するも苦くは  
 と信実、おちのふと、猛公大不飲びや争。這面の奇遇と黙止らん直る足下と諸  
 共不鎌倉へ参るべ。汝達も如此心得よと。田居一者不き。亦せぬ。食一般不愛しと。  
 曾動もつて是。祝むがる折。外方不人音あり。潜り戸と。引あり。未る。兩三  
 個獸六郎が在り。左右の寄もつる。言葉もなき。在けるが。傾て猛公とち  
 見あり。哥こと夢りけ。斥蔭へまじ。猛公とち坐と。彼処へおて。何やら。要  
 時依語ありける。猛公、柴等と。て。獸六が前へ出未。かく。不素性。未。壓物。が。る  
 う。何と。畏まん。在下。適武門。不。生。ま。生涯。か。て。在。ん。と。勇士の。愧。所。る。れ。一。回。ハ  
 世。不。出。て。祖先の名。とも。輝。まん。と。縁。て。思。へ。前。の。主。猛。公。の。不。束。ぬ。借。錢。の。債  
 数。多。あり。在。下。と。嗣。と。め。責。ら。る。と。い。と。急。る。れ。が。ま。が。兎。角。あ。て。償。ふ。の。う。ろ。  
 身の。愿。の。財。用。足。ら。は。志。諺。ゆ。い。切。取。強。盜。武。門。の。慣。ひ。と。せ。る。れ。ば。実。い。ま。の。涉。り。と

過る旅客。錢ある。奴と。え。る。と。れ。の。路。上。出。て。と。ま。と。奪。ひ。志。願。の。助。不。充。つ。と。い。と。未。  
 一人も。不。と。ま。と。其。賊。と。掠。ひ。る。の。と。然。る。と。這。奴。が。川。中。の。て。盤。纏。数。多。と。齋。を  
 旅人。武士。と。れ。と。個。多。り。奪。ひ。と。と。商。売。し。て。掛。り。処。多。く。は。強。く。と。及。び。難。  
 殺。さ。び。安。き。と。る。れ。と。然。る。と。せ。と。縁。せ。り。誠。め。お。き。と。よ。く。守。り。序。は。武。士。が  
 胴。卷。外。と。と。奪。ひ。と。り。各。不。川。へ。飛。籠。り。難。く。逃。さ。る。と。ひ。て。その。品。と。今。め。て  
 未。ら。う。思。ふ。不。筒。の。武。士。と。り。雨。不。お。る。ハ。雨。不。お。る。と。ま。と。の。知。ら。ば。此。処。へ。未。つ。酒。食。と  
 做。す。も。因。縁。多。る。と。奇。と。と。ち。笑。ひ。借。り。件。の。朋。卷。を。把。り。多。寡。と。改。め  
 ひ。れ。ば。砂。金。お。よ。と。五。十。兩。逆。曾。稀。多。獲。め。り。ま。ら。汝。達。も。領。兵。え。ん。と。な。不  
 その。裡。と。改。む。不。その。表。書。の。密。書。と。の。記。し。る。書。翰。あり。い。ろ。ろ。の。文。を。披。き  
 者。ん。と。燈。火。と。搔。く。と。ある。と。あ。つ。披。き。と。す。る。水。涿。涿。と。破。ま。る。と。す。る。不。と。ふ。ま。ん  
 其。俣。大。不。毀。り。て。乾。く。せ。よ。と。四。言。と。あ。ひ。大。桶。と。り。て。未。る。者。も。あり。妾。時。殿。不

大々の乾きぬらんと封おきま。徐々披き板小裁てその文辨と讀下さ。這回  
 當所の強者と檢勘して下ま。全く罪と負見為の。然れど、彼強者  
 頗る才智ある。これ万一首尾を仕課して歸らば、威と張ん。因て密山賊へ  
 陥穿と構えおき。渠を主従十四五個餘を其処へ陥る。其謀計を汝を使  
 小卒一水井の。夢おもふ洩さべ。若この一挙甘謀らば、不日小賞と行ふ  
 べ。努々疎畧ある。とこの配え叮嚀ふ記す。書小ありけ。猛  
 八二と見畢。ていう。小も容子あり。氣多れ。強者の水弗のと何まの人  
 あり。と。さ。この筒の武士。この密書。と。途方。小。の。な。と。嘲  
 笑。て。居。り。け。と

朝夷巡島記全傳第七編卷之二 終

